

**田沼意次の家臣団**  
——意次を支えた人々——

株仲間（株仲間の奨励や貨幣改革、蝦夷地開発計画など、意次は従来とは異なる斬新な政策を実施し、幕府の財政再建に取り組みました。）

しかし、勘違いしてはいけないのが、これらの政策を全て意次一人が立案したわけでも、実行したわけでもないことです。むしろ、意次の最も優れていた点は、これらの斬新な政策をもたらす人脈と、その実現に向けて水面下で活動する特異な家臣団を形成したことにあると思います。

では、どのような人々が意次を支えたのでしょうか。ここでは、特に家臣団に注目して、意次の代表的な家臣である井上伊織、三浦庄二、多賀谷求馬を紹介しましょう。

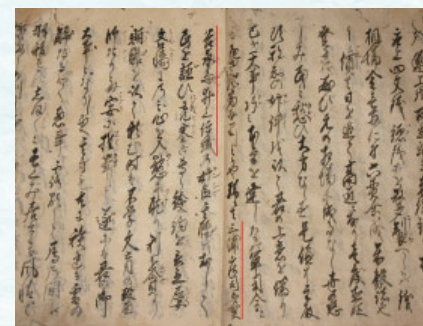
井上伊織（1725? - 1807）は、諱を良矩（よしのり）とい、田沼家の家老を務めた人物です。伊織に改名する以前は、寛司と名乗りました。元々は、近江国甲賀（現滋賀県甲賀市）の浪人といわれています。三浦庄二と並ぶ意次側近の一人で、池上幸豊の白砂糖



井上伊織奉納の石灯籠（勝林寺境内）



多賀谷求馬奉納の手水鉢（飯津佐和乃神社境内）



『相良海老』に記された「三浦庄二・多賀谷求馬・井上伊織」の名前

製造を仲立ちするなど、諸大名や民間からの用件を仲介する取次役として活躍しました。また、安永9（1780）年には、相良城築城の功績を評価され、永代家老の榮譽を受けました。田沼家菩提寺の勝林寺（東京都豊島区）には、井上伊織が奉納した石灯籠が2基現存しています。

三浦庄二（1724? - ?）は、田沼家の用人（家老・中老の補佐）を務めた人物です。出自は定かでない、備後国福山（現広島県福山市）の百姓とも、江戸の町人ともいわれています。井上伊織と並ぶ意次側近の一人で、諸家との折衝役・連絡役として活躍しました。一説に、蝦夷地開発のきっかけとなった工藤平助（仙台藩医・蘭学者）を紹介

したのは、三浦庄二ではないかと考えられています。天明8（1788）年、意次の死去に伴って暇をもらい、田沼家から離れ、その後の消息はよくわかっていません。

多賀谷求馬（生没年不詳）は、諱を嘉般（よしかた）といい、田沼家の用人を務めた人物です。出自は良くわかっていません。田沼家においては、国元にて城代家老を補佐し、相良藩政の実務を担当しました。天明4（1784）年、意次の嫡男・意知が死去し、平田寺で法事が執り行われた際は、意次の名代としてこれを差配しました。飯津佐和乃神社境内にある御館稲荷の前には、多賀谷求馬が奉納した手水鉢が現存しています。また、百花稲荷にある相良城礎石にも

その名前が確認できます。その他の家臣としては、江戸詰家老の深谷市郎右衛門（田沼家譜代の家臣）、各務久左衛門（旗本脇坂家の元家臣）、国家老の三好四郎兵衛（相良湊の廻船問屋）、その後を継いで筆頭家老・相良城代となった倉見金太夫（意次の義兄弟）、中老の潮田由膳（経歴不明）、相良城を設計した甲州流軍学者の須藤二郎兵衛などがいました。総勢は、四〇〇人程度だったと考えられています。

意次は、百姓や町人であっても、能力があれば家臣に登用する異例の人事を行いました。そして、その家臣たちを駆使し、当時の身分制度に留まらない独自の交流関係を築いたのです。

## 市内の農業者、頑張ってます

市内の農業者が11月、それぞれの分野で素晴らしい賞を受賞されましたので、その概要をお知らせします。

問い合わせ 農林水産課 浅井 ☎2618



### 令和元年度 ふじのくに新商品セレクションで最高金賞を受賞

県内農林水産物の魅力を活かし、商品化2年以内の加工食品を対象としたコンクール「ふじのくに新商品セレクション」で、河村充さん（波津区）が応募数73点の中から「最高金賞」を受賞しました。

河村さんは、父親が趣味で行っていた蜜蜂の飼育に興味を持ち、一念発起して脱サラ。平成29年度に養蜂農家として新規就農し、現在3年目になります。

国内で流通する国産蜂蜜は約7%で、さらに産地を限定したものはほとんどない中、牧之原市産100%の蜂蜜を、6、7、8月の月ごとで味の違う3種の「牧之原市産ブランドはちみつ Honeyboy」としてブランド化したことが評価されました。

河村さんは「受賞を励みに、Honeyboyを牧之原市を代表する農産物にしたい」と話しました。



川勝知事から表彰を受ける河村さん（右）



会場で「Honeyboy」を紹介する河村さん



### 令和元年度 全国優良経営体表彰 働き方改革部門で 全国担い手育成総合支援協議会長賞を受賞

意欲と能力のある農業者の一層の経営発展を図るため、農業経営の改善改善や地域農業の振興・活性化に優れた功績を挙げた農業者を表彰するコンクール「全国優良経営体表彰」の働き方改革部門で、有限会社ヤマセン（代表取締役：畑勝也さん）が「全国担い手育成総合支援協議会長賞」を受賞しました。

有限会社ヤマセンでは、茶価低迷に伴い、所得向上のため茶園面積の拡大や複合作物の生産拡大を進めています。平成30年から、従業員の労働生産性の向上および収益性の高い作目選定を行うため、トヨタ自動車株式会社と連携。農業IT管理ツールを活用してムダの削減に取り組み、生産性を向上させたことが評価されました。

代表取締役の畑さんは「受賞を励みに、引き続き改善に取り組みたい」と話しました。



表彰状を受け取る畑さん（右）



表彰状を持ち笑顔の畑さん